

は約束どおりにサラにイサクという子をお与えになりました。そのため、人間的には様々な思いが行き巡ることとなりました。

アブラハムには二人の息子、一人は女奴隷（妾）から、もう一人は自由の女（正妻）から（生まれた子）がいた。（4・22）

こうして、アブラハムに生まれた子は二人、一人は女奴隷ハガルが産んだイシュマエル、そして後になって妻サラが生んだイサクです。パウロは「他方、自由の女（正妻）から生まれた息子は約束から（生まれた）」と言います。サラとアブラハムも少々焦っていたのでしょうか。神さまがすでに約束してくださったのに、忍耐強く待てなかった。神の約束に全き信頼を置き切れなかった、というのはあまりに酷な評価でしょうか。いやむしろ、神は、女奴隷ハガルを通して跡継ぎを与えてくださるに違いないと思っただけでしょう。すっかり諦めた頃にサラがイサクを生んだことを思うと、女奴隷ハガルがイシュマエルを生んだことは、やはり人間的な思いにほかならない。「肉によつて」とパウロが書いたことも頷けます。

それに対して自由の女サラには奇跡的に神の力、神の約束に基づいてイサクが与えられました。同じアブラハムの子とはいえ、いっぽうは「肉によつて」他方は「約束によつて」です。ここに

は雲泥の差があります。ここでパウロは創世記のアブラハム物語をただ復習しているだけではありません。

ここには寓喩（アレゴリー）化が見られる。というのは、この二人の母親は二つの契約である。一方、シナイ山から隷属に産む一人、それはハガルです。それで、ハガルはアラビヤにあるシナイ山であるが、今のエルサレムに符合する。というのは、彼女は彼女の子どもたちとともに奴隷として仕えるから。（4・24、25）

女奴隷ハガルとその子イシュマエル、アブラハムの妻サラとその子イサク。ここには比喩があるとパウロは指摘します。これは実は契約のことなのだ、と。「一方、シナイ山から隷属に産む一人、それはハガルです。それで、ハガルはアラビヤにあるシナイ山であるが、今のエルサレムに符合する。というのは、彼女は彼女の子どもたちとともに奴隷として仕えるから」

上のエルサレムは自由の女で、私たちの母です。（4・26）

女奴隷ハガルはシナイ契約の比喩だ、と。一言で言うと、ハガルそしてイシュマエルの流れは

ユダヤ教だとパウロは主張しているのです。シナイ山でモーセを通してイスラエルの民に律法が授けられた律法に基づいてエルサレム神殿で礼拝を献げたり、祭りを祝つたりするユダヤ教がありました。でも、ここで鍵となる概念は奴隷、隷属です。それに対して、自由の女サラ、そしてイサクの流れは、キリストにある自由、新しい契約を指す、とパウロは主張します。

実は、ここでは当時のユダヤ人たちの一般的な理解が真逆にされています。よろしいでしょうか。ユダヤ人、ユダヤ教の立場から言えば、アブラハムと、その妻との間に与えられたイサク、さらにはヤコブの血筋こそがユダヤ民族の血統であり、ユダヤ教の系譜です。それに対して、女奴隷ハガルの息子イシユマエルから出た民族は、非ユダヤ民族です。そして、歴史的にも、アブラハム、イサク、ヤコブの流れこそがイスラエル民族です。ヤコブの別名がイスラエルで、彼に生まれた十二人の息子たちが十二部族に発展しました。ところが、ここでパウロは旧約聖書を根拠にして正反対のことを論じます。

　　というのは次のように書かれているから。子を産まない不妊の女よ、喜べ。産みの苦しみをしない女よ、叫んで大声を出せ。捨てられた女の子どもは、男のある女の（子ども）より多いから。兄弟たち、あなたがたはイサクに従って約束の子どもです。（4・27、28）

ここで、パウロはイザヤ書54・1から引用しています。現代的に言うと、不快語、差別語のオンパレードで、表現上問題が多々ありますが、古代の価値観が反映しているということで、ご容赦くだされば幸いです。

一節だけを文脈から取り出して読んでも何が預言されているか定かではありません。旧約聖書の時代には、イスラエルの王国がありました。ダビデ、ソロモン時代には版図も広がり、栄華を極めました。ソロモンの死後、南北に分裂し、その後、アッシリア帝国が北王国イスラエルを滅ぼしました。南王国ユダはその後もしばらく続きましたが、バビロン帝国によって滅ぼされ、ユダの民はバビロンに捕らえ移されました。これがバビロン捕囚です。イザヤ書40章以降では、ユダの民がそのバビロン捕囚から解放されて約束の地パレスチナに戻ってくるのが預言されています。

旧約聖書では、しばしばエルサレムは女性にたとえられています。旧約聖書の原語はヘブル語という言語で書き記されていますが、そのヘブル語では、文法上の性があつて、名詞も女性名詞、男性名詞に分かれます。都市、町を意味する語が女性名詞であることから、韻文などでエルサレムは女性にたとえられて、エルサレムの住民のことは「シオンの娘」と表現されます。この引用された箇所では預言者イザヤは女性のことを話題にしているではありません。

「子を産まない不妊の女」「産みの苦しみをしない女」「捨てられた女」とは、バビロン捕囚の憂

き目に遭ったユダの首都エルサレムのことを指します。「子を産まない不妊の女」「産みの苦しみをしない女」「捨てられた女」とは、恵まれない不幸な女性のことですが、古代の価値観が色濃くい表現であることはご容赦ください。捕囚の憂き目という不遇は、神のさばきの結果でしたが、あわれみ深い神の恵みによってさばきが祝福に逆転されることをイザヤは預言しました。捕囚の憂き目に比べて、捕囚から帰って来てから主が施す祝福のほうがはるかに素晴らしいことが強調されています。神のみわざは決して、捕囚というさばきで終わってしまうことはない。さばきのただなかでも、神の民が主に立ち返るなら、主の回復の恵みがあり、以前をはるかに凌ぐ栄光が到来する。それが、イザヤの預言のポイントとなっています。

預言者イザヤは、捕囚のさばきと捕囚後の回復とのコントラストを強調します。ところが、パウロは旧約聖書のシナイ契約、律法への服従とキリストによる救い、キリストにある自由とを対比します。そういう視点からパウロはイザヤの預言を再解釈しています。

アブラハムの妻サラは不妊の女でした。イザヤは、預言した捕囚時代のエルサレムと捕囚後のエルサレムの栄華と対比しましたが、パウロは、その対比を不妊の女サラと女奴隷ハガルとの比較に転用します。日本でも、不妊の女性はかつて蔑視され、しばしば不当な扱いを受けました。ただ興味深いことに、旧約聖書では、そのように不幸な不妊の女こそが、神にあわれまれて特別に祝福されて特別の恩恵に浴することが語られています。例えば、サムソンの母マノアの妻、サ

ムエルの母ハンナがいます。また、ヤコブにはラケルとレア姉妹と二人妻がいましたが、妹のラケルは不妊の女でした。新約聖書でも、バプテスマのヨハネの母エリサベツが不妊の女でした。しかし、神はそういう不妊の女たちにこそ目を留め、子宝をお授けになりました。

サラという不妊の女には神から特別な恵みが与えられる。不妊の女だったのに、サラの子たち、サラの子孫のほうにハガルの子よりも多くなる。そういう少々逆説的な状況がもたらされるといふのです。確かに、神はアブラハムに約束なさいました。「そして、彼（アブラハム）を外に連れ出して仰せられた。『さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。』さらに仰せられた。『あなたの子孫はこのようになる』」（創世15・5）。

アブラハムの子孫が夜空の星のように、海の砂のように数え切れなくなる、とは不妊の女サラの子どもが数え切れなくなることです。女奴隷ハガルの子孫よりも、多くなることが示唆されています。これは、とりもなおさずシナイ契約によるユダヤ教徒よりも、キリストにある自由を享受する者たちのほうがはるかに多くなる、そうパウロは再解釈しています。

しかし、肉によつて産まれた者が以前、御霊による者を迫害したのとちようど、今も同様です。しかし、聖書は何と言っているか。女奴隷（妾）と彼女の息子とを追い出せ。というのは、女奴隷（妾）の息子が自由の女（正妻）の息子とともに相続してはならないから。（4・29、30）

創世記には、すでに大きくなっていたハガルの子イシュマエルが、まだ幼いサラの子イサクをからかったことが記されています。そのことを指して「しかし、肉によって産まれた者が以前、御霊による者を迫害した」と書かれたのでしょうか。いえ、かき乱す者たちが異邦人キリスト者たちに割礼と律法遵守を強要したことでしょうか。

サラの嫉妬も絡み合って、アブラハムは苦境に陥りました。アブラハムにしてみれば、イシュマエルもイサクも自分の愛すべき子でした。そんなアブラハムに神は明確に語りかけます。「女奴隸（妾）と彼女の息子とを追い出せ。というのは、女奴隸の息子が自由の女の息子とともに相続してはいけなから」。悪影響を排除するため、女奴隸の子、イシュマエルに代表される「かき乱す者たち」、偽兄弟たち、割礼と律法を強調して異邦人キリスト者に割礼と律法遵守を強制する者たちを追い出さなければならぬ、と。パウロたち、私たち、福音の真理にしっかりと根ざして歩んでいる者たちこそが、ここで言う「自由の女の子ども」にほかなりません。

パウロの議論展開を辿ることは必ずしも容易ではありません。でも、言わんとするところはおぼろげながらおわかりいただけたことと思います。キリストがいのちがけで勝ち取られた自由を疎かにしてはなりません。自由こそが福音の神髄にかかわることです。さらに、割礼と律法を強要する者たちには気をつけるように、とパウロは警告し、あまり仲良くならないように注意を促

215074